

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—たとえばキミが—

NO. 19



あんずの午後、放デイを利用する子ども達を学校に迎えに行くと、クルマに乗り込んでくる様子で、今日がどんな一日だったか、何となくわかります。

穏やかないつもの一日だったよって顔。何やら一戦交えてきたよって顔。「疲れたよ〜」って、満足げにシートに身を委ねる顔。何があったのか“まだ何か納得していないな”っていう微妙な顔。とはいえ、やっぱり上級生になってくると器も大きくなり、何があってもどっしりしてきます。

ある日の出来事です。この曜日は、お迎えのルートの都合で、学校からあんずまでトトロさんを乗せたひとり旅です。今日の学校の様子を聞いたり、好きな“しりとり”をしたり。トトロさんの返事はいつも一言二言、そんな車内です。その日は盛んに口笛を吹くように声を出していたので、「何か吹こうか?」「何がいいかな?」と尋ねると「吹く」の一言が返ってきました。“そういえば、この間の学校の文化祭であれを唄ってたっけ”と思い、私がある歌を一曲ゆっくり吹きました。「この歌知ってるよね?」と声をかけると、「たとえばキミが!」と、トトロさんが答えました。「そうピリブだよ」「この歌好き?」と尋ねると、トトロさんは「好き!」と即答です。それまで座席に深く座っていたのに、急にミラーに映るトトロさんの顔が大きくなりました。

「じゃあ、一緒に唄おうよ!」と、まずは私がワンフレーズ、「たとえばキミが傷ついて♪〜」と唄うと、トトロさんが「くじけそうになったときは♪」と続けてきました。「必ずボクが〜♪」と私が続けると、「そばにいて、支えてあげるよ♪」とトトロさん。「その肩を〜♪」と私。そんな掛け合いで曲の一番を唄いきりました。

「じゃあ、今度は口笛を吹くから、トトロさん唄ってよ」とリクエストをすると、ニコッと笑顔。ゆっくり口笛でメロディを吹き始めると、トトロさんも唄い始めました。とても嬉しかったようで、途中でトトロさんの笑い声が入り、私は口笛を止めます。また呼吸を合わせて口笛と歌を続け始めました。唄い終わると、トトロさんから「たとえばキミが!」と、もう一回唄おうと誘ってくれました。あんずまでの20分余りの道中、ずっと唄い続けました。さすがに、私の唇はカラカラに。でも、心はポカポカ、最高の時間でした。次のお迎えの日も、トトロさんから「たとえばキミが!」とリクエストがあります。曲の二番が二人とも怪しかったのですが、トトロさんから「にばん!」と大きな声で“二番を教えて”と。平仮名はしっかり読めるので、あんずに着いてから歌詞カードを書いて渡しました。さて、今週はマスターしているかもしれません。私も覚えなきゃです。

大感激でした。クルマのミラー越しに始まった時間ですが、これぞ放デイならではの“ひととき”だと思います。抽象的な表現なので普段はあまり使わない言葉ですが、まさに“豊かな時間”です。「できること」「わかること」を増やすだけじゃない、この時期に大切なことをトトロさんに教えてもらいました。

THANK
YOU

じつはトトロさん、“おやつのじかん”に登場するのは2回目です。前はちょうど10年前。またあんずと一緒に過ごす時間が持て、ここでエピソードを書かせてもらえたことは感慨無量です。トトロさん、ありがとう。とてもその言葉だけじゃ足りないけど。(H29. 12) K

